

あかねだより

2023. 12月号

今年も、残り少なくなりました。コロナ感染が落ち着いたかと、思った矢先、インフルエンザ襲来です。最近、マスクをされる方も、少なくなり感染が、一気に増加しています。しかし、私、思うんです。インフルエンザやコロナ。かかると大変で、本当に死に直結する場合があるから、気を緩めることはできませんが、防止ばかりしていると、免疫力が下がるんじゃないかと・・・免疫力は、大切です。おたふくかぜや、風疹・・・子供のころに罹ると、ある一定の期間は、感染しても軽くて済むと言われています。私の幼いころは、野放しでしたから、麻疹もおたふくも、いつの間にかかかっていました。

そんな時代になればいいなあ～と思います。みんなが罹って軽く済む時代。来ませんかね～。

さて、久しぶりに事務所の片付けを本格的にしました。すると、掃除の手を止めて、じっくりと読んでしまったものがあります。今から紹介したいと思います。

長尾和宏「親の「老い」を受け入れる」著書より ブックマン社

老いるということ

親が老いるということ

それは、何度も同じ話をすること

何度も同じ話を訊いては、あなたを苛々させるということ

親が老いていくということ

それは、自身が無くなるということ

自身がなくなるけど、子供にだけは強がっていたいということ

親が老いていくということ

それは、歩くのが遅くなるということ 膝や腰が常に痛いということ

低気圧がくるだけで動くのがしんどい日があるということ

親が老いていくということ

それは食べる量が減るということ 噛む力が弱まるということ
でも食べたいものを食べさせるのが一番の健康法であること

親が老いていくということ

それは、もう生きているのは嫌 早く死にたいと言い出すこと
だけどあなたに迷惑をかけたくない気持ちと裏腹かもしれないこと

親が老いていくということ

それは、トイレが近くなること 夜中にトイレに起きること
尿道も肛門も緩むから ふとしたときに漏らすということ

親が老いていくということ

それは、歩行や食事が遅くなったり トイレに失敗したときでも
子供にだけは怒鳴られたくない 怒られたくないということ

老いるということ

親が老いていくということ

それは、言葉が咄嗟に出なくなってくるということ
言葉が出なくなっても、心の中に想いはちゃんとあるということ

親が老いていくということ

それは、周囲の友人や愛している人や犬や猫が
徐々にこの世からいなくなって どんどん不安になるということ

親が老いていくということ

それは不安である分、あなたの事が気がかりだということ
あなたの電話を待っているということ 声が聴きたいと願うこと

親が老いていくということ

それは 萎んでいくこと 小さくなっていくということ
小さくなって軽くなって それでもあなたの親であるということ

親が老いていくということ

それは、お別れの日が少しずつ近づいてきているということ

親がどんなお別れを望んでいるのか察してあげること

親が老いていくということ

それは、うとうとする日が多くなっていくということ

この世とあの世の境目が少しずつ曖昧になっていくということ

親が老いていくということ

それは命のしまい方を、あなたに教えてくれているということ

あなたもいつかこうなるのだと それは最後のプレゼント

以上の言葉です。親も子も「老いを受け入れる力が大切だ」と、長尾先生は仰っています。この本の中の一部をコピーした時の私自身の気持ちは忘れてしまいましたが、何か心惹かれるものがあったのでしょうか・・・

一年の締めくくりにこの詩が私の手元にも、今これを読まれている方の手元にもあり、不思議なご縁と、来年に向かって新たな気持ちにさせていただけたことに感謝し、今年を締めくくりたいと思います。

また、これからもよろしくお願い致します。

「あかね」のホームページが出来ました。

良かったら、ホームページも見て下さい。

年末になりました。寒い日があります。どうぞお体ご自愛下さい。

私のつたない経験が「一燈照隅のたね」になれば幸いです。